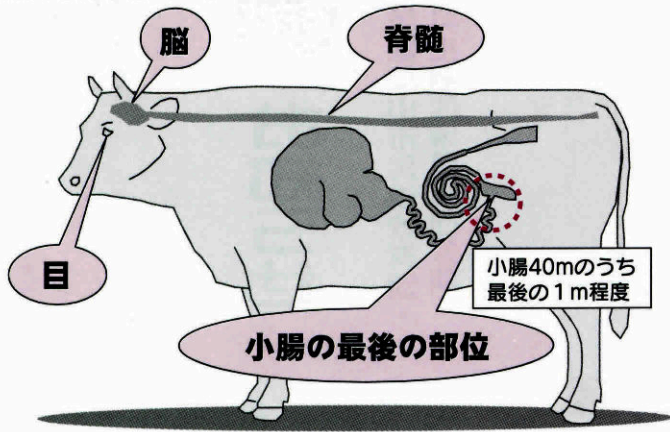


牛海綿状脳症感染の特定危険部位



牛肉は安心して 食べることが出来ます

牛海綿状脳症

(狂牛病)

Q & A

Q 牛海綿状脳症(狂牛病)ってどんな病気?

A 牛海綿状脳症は、1986年にイギリスで初めて報告された牛の病気です。この病気にかかった牛の脳神経細胞が空洞化し、脳の組織が海綿状(スポンジ状)になることから、牛海綿状脳症と名付けられました。症状は、2~8年(通常2~5年)の潜伏期間後、行動異常、運動失調などの神経症状が発生し、発病後2週間から6ヶ月の潜伏期間を経て死に至ります。牛海綿状脳症の原因はプリオンといわれ、プリオンたんぱく質が異常化することによるといわれています。

Q 牛海綿状脳症の発生の原因はなんですか?

A 牛海綿状脳症に感染した牛等の反すう動物由来の肉骨粉等を牛に飼料として与えたことで感染したことが主な原因であると考えられています。だから、牛海綿状脳症に感染した牛への接触等によって感染が広がるわけではありません。

国内で初めて狂牛病が確認されたことから、牛肉や牛乳、乳製品に感染の原因とされる牛の脳、脊髄、目、小腸の最後の部位を使っていないので、食べても安全です。市・県では、今後も牛肉や牛乳、乳製品の安全を確保します。

●問い合わせ 県畜産課 ☎0833・9333・3434、山口県生活衛生課 ☎0833・9333・2974 市農林課 ☎233・1139 市商工観光課 ☎233・1136

Q 牛乳や牛肉は食べても安全なのですか?

A イギリスの実験・研究の結果、牛海綿状脳症の感染は牛の脳・脊髄・目および小腸の最後の部分以外は感染はなく、一般に食べられている牛肉や牛乳・乳製品からの感染はなく安全であると分かっています。この事は世界保健機構(WHO)や国際獣疫事務局(OIE)などの世界機構も認めています。

Q 牛海綿状脳症は人や牛以外の家畜に感染しないのですか?

A 牛海綿状脳症は脳・脊髄・目・小腸の最後の一部のみ感染の原因があり、それ以外の牛の部位には症状や感染の要因はなく、これを食しても感染することはありません。私たちの日常生活では牛海綿状脳症の感染の心配はありませんので牛乳・乳製品や牛肉を食べても安全なのです。

牛肉を扱う事業者のみなさんへ

この度の狂牛病により、経営に影響の出た人を対象に、市・県では融資制度を行っていますのでご利用ください。
●申し込み 市内各金融機関

●さらに、牛海綿状脳症感染の有無に関わらず、脳・脊髄・目および小腸の最後の部位を除去し、焼却しています。

●牛海綿状脳症の感染源とされている牛を原料とする肉骨粉について輸入、製造および出荷を禁止し、今後は牛がエサとして肉骨粉を食べることはなくなりました。

牛海綿状脳症の検査

農場での対策 飼料の安全確保

●全国のと畜場において、諸外国でも例がない食肉処理を行うすべての牛を対象にしたBSEスクリーニング検査を実施し、検査に合格した肉等のみが出荷されます。

●農場においては飼育される牛を検査し、牛海綿状脳症(狂牛病)が疑われる牛は検査の上、すべて焼却します。